

## 『中・高等学校交渉コンペティションへの招待』

埼玉大学教育学部准教授  
小貫 篤

2024年12月21日に2024年第8回中・高等学校交渉コンペティションが東京都立日比谷高等学校で開催されました。中・高等学校交渉コンペティションは、2017年に開始された大会です。その趣旨は、以下の通りです。

“高等学校学習指導要領「公民」では、合意形成や社会参画が強く求められています。これは、中学校学習指導要領「社会」においても同様です。中学校学習指導要領「社会」では、「対立と合意」という社会的な見方・考え方を働かせて社会的事象について考察することとなっています。

学習指導要領の記述を踏まえて、紛争解決や合意形成する力を育成するためには、アメリカ全土のロースクールでほぼ必修科目となりつつある交渉学の考え方や技能を中学生の段階から身に付けることが重要です。

中・高等学校交渉コンペティションは、上記のような問題意識から発足されました。“  
(中・高等学校交渉コンペティションHP <https://sites.google.com/view/negocompetiton/>)

中・高等学校交渉コンペティションは、法学・教育学の研究者、高等学校の教員が連携して実行委員会を組織し、大会を企画・運営しています。委員長は野村美明先生、委員は石淵貴士先生(東京都立日比谷高等学校)、小野木尚先生(明治学院大学)、加納隆徳先生(秋田大学)、末吉智典先生(東京都立小松川高等学校)、田村陽子先生(筑波大学)、事務局は小貫が務めています。

2024年の問題は、「まちづくり・再開発についての交渉」で、鉄道会社、地方公共団体、巨大ショッピングモールを運営する私企業の3者間交渉でした。これまではバイ交渉の問題でしたが、はじめてマルチ交渉の問題で実施しました。運営側としては若干の不安がありましたが、参加した生徒さんたちは周到な準備の下で大会に臨み、上手に交渉を進めてくれました。また、審査員は、法学・教育学の研究者、法曹三者、学校教員の先生方1試合3人でした。審査員の先生方は生徒たちの交渉を丁寧に見取り、公正で的確な審査をしていただきました。

出場校・チームは、福島県立福島高等学校、東京都立蒲田高等学校、東京都立立川国際中等教育学校、東京都立武蔵高等学校、東京都立武蔵高等学校附属中学校、聖学院中学校高等学校、明治学院大学東村山高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、洗足学園高等学校、福井県立若狭高等学校、京都府立菟道高等学校、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎の、12校21チームでした。結果は、優勝が洗足学園高等学校チームC、準優勝が筑波大学附属駒場高等学校チームA、第3位が東京都立蒲田高等学校でした。

中・高等学校交渉コンペティションは、学校外の交渉教育と位置付けることができます。教育学における交渉教育とは、分配型交渉や統合型交渉の見方・考え方や技能を身につけ、交渉の状況に応じて紛争解決をはかる力を育てる教育です。交渉の技能は、いま注目されている非認知能力の一つであり、今後の教育に大きな影響を与えるものになります。また従来、「技能」は、資料の収集・読み取り・解釈という学習技能を意味していました。しかし、エージェントが注目される今、「技能」を「社会で実際に活用できる実践的スキル」と捉え直すことも必要になってきます。交渉の技能は、この実践的スキルと位置付けられます。交渉教育は、こうした教育界の潮流を受けて今後発展していくことが予想されます。こうした交渉教育を、社会科、特別別活動、総合的な探究(学習)の時間などの学校内で行うことと同時に、中・高等学校交渉コンペティションなどの学校

外のイベントで行うことで、社会を少しずつよくしていくシティズンシップを育成することが必要と考えております。